

地域医療支援病院業務報告書

2025 年 9 月 17日

愛知県知事殿

開設者 住 所 名古屋市南区白水町9番地
〔法人の場合は、主たる〕
〔事務所の所在地〕

氏 名 社会医療法人宏潤会
〔法人の場合は、名称及〕
〔び代表者の職・氏名〕 理事長 宇野 雄祐

下記のとおり、2024年度の業務に関して報告します。

記

1 病院の名称等

名 称	大同病院					
所 在 地	愛知県名古屋市南区白水町9番地					
診 療 科 名	内科、血液・化学療法内科、糖尿病・内分泌内科、腫瘍内科、腎臓内科、リウマチ科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、循環器内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化器外科、呼吸器・心臓血管外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、脳神経外科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、臨床検査科、病理診断科、人工透析内科、小児科（新生児）、歯科、老年内科、救急科、放射線診断科、放射線治療科、精神科、緩和ケア内科、小児外科					
病 床 数	精 神	感 染 症	結 核	療 養	一 般	合 計
	0	0	10	0	394	404

2 施設の構造設備

施 設 名	設 備 概 要
集 中 治 療 室	（主な設備）救急蘇生装置、除細動器、ペースメーカー、心電図、ポータブルX線撮影装置、呼吸循環監視装置 病床数 10 床
化 学 検 査 室	（主な設備）臨床化学自動分析装置、血液ガス分析装置、全自動輸血検査システム、血球計数装置、免疫分析装置
細 菌 検 査 室	（主な設備）遺伝子解析装置、微生物同定感受性分析装置 全自動PCR検査装置、血液培養自動分析装置、安全キャビネット

病 理 検 査 室	(主な設備) クリオスタット、自動包埋装置、マイクローム、 自動染色装置、安全キャビネット
病 理 解 剖 室	(主な設備) 解剖台、標本撮影装置、プッシュプル対面式切り出し台
研 究 室	(主な設備) 椅子、机、PC (電子カルテ用・インターネット用)
講 義 室	室数 6 室 収容定員 112 人
図 書 室	室数 1 室 蔵書数 800冊程度 と電子書籍 (蔵書内訳 国内図書：740冊、国外図書：32冊、国内雑誌：69冊、国外 雑誌：3種)
救 急 用 又 は 患 者 搬 送 用 自 動 車	(主な設備) 人工呼吸器、携帯型超音波診断装置、携帯用心電計、 ベッドサイドモニタ、除細動器、AED 保有台数 1 台
医 薬 品 情 報 管 理 室	[専用室の場合] 床面積 5.34 m ² [共用室の場合] 室と共用

備考1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

2 規則第9条の2第1項各号に掲げる事項を記載した書類を添付すること。

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

1 算定期間 2024年 4 月 1 日 ～ 2025年 3 月 31 日

2 紹介率 77.0 % 【資料①参照】

紹介患者の数 (A)	初診患者の数 (B)	紹介率 ($A/B \times 100$)
6,156人	7,990人	77.0%

3 逆紹介率 119.5 % 【資料①参照】

逆紹介患者の数 (C)	初診患者の数 (B)	逆紹介率 ($C/B \times 100$)
9,552人	7,990人	119.5%

※1 各人数については、前年度の延べ人数を記入すること。

※2 紹介率及び逆紹介率は、小数点以下第1位まで記入すること。

※3 紹介率が80%以上であることを承認の要件とする場合で、紹介率が65%以上80%未満の病院にあっては、今後、2年間で紹介率を80%以上とするための具体的な年次計画を明らかにする書類を添付すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

共同利用の実績
(地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用)

1 共同利用の実績 【資料②参照】

※ 1 前年度の共同利用を行った医療機関の延べ機関数、これらの医療機関のうち申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数、共同利用に係る病床の病床利用率等を記入すること。

- ・ 共同利用を行った医療機関の延べ機関数 2,610機関
- ・ 申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数 2,610機関
- ・ 共同利用に係る病床利用率 1.2%、利用延日数：21日/延日数：1,825日

2 共同利用の範囲等

※ 2 病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象としたものを記入すること。

開放病床、R I、MR I、C T、内視鏡検査、会議室、図書室、地域医療連携医局
※ 図書室・地域医療連携医局、利用実績なし

3 共同利用の体制

共同利用に関する規程	有 ・ 無	
利用医師等登録制度の担当者	氏 名	
	職 種	医師

※ 3 共同利用に関する規程がある場合には、当該規程の写しを添付すること。【資料③参照】

4 登録医療機関の名簿

医 療 機 関 名	開設者名	住 所	主たる診療科	申請者との経営上の関係
【資料④参照】				

※ 4 申請に係る病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関についてのみ記入すること。

5 常時共同利用可能な病床数 5 床

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

救急医療提供の実績

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況 【資料⑤参照】

No.	職 種	氏 名	勤 務 の 態 様	勤 務 時 間	備 考
		【資料⑤参照】	常勤 非常勤 専従 非専従		

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	名称（ 集中治療室 ） 10床
専用病床	名称（ 新生児集中治療管理室 ） 6床

※ 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記入すること。

3 重症救急患者に必要な検査又は治療を行うために必要な診療施設の概要 【資料⑥参照】

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要	24時間使用の可否
救急センター	684.2m ²	（主な設備） 救急蘇生装置、除細動器、ペースメーカー、心電図、血液ガス分析装置、ストレッチャー、救急用カプノメーター	可
手術室	1068.22m ²	（主な設備） Da Vinci、手術台、麻酔器、無影灯 超音波画像診断装置、内視鏡手術システム 手術用ナビゲーションシステム 移動型X線撮影装置、手術顕微鏡	可
I C U	500.96m ²	（主な設備） 救急蘇生装置、除細動器、ペースメーカー、心電図、ポータブルX線装置、呼吸循環監視装置	可
N I C U	74.2m ²	（主な設備） 救急蘇生装置、除細動器、ペースメーカー、心電図、ポータブルX線装置、呼吸循環監視装置、酸素濃度測定装置、光線治療器、保育器	可

4 救急医療の提供の実績 【資料⑥参照】

救急用又は患者搬送用の自動車により搬入した救急患者の延べ数	7,222人 (2,553人)
上記以外の救急患者の延べ数	15,402人 (1,932人)
合計	22,624人 (4,485人)

※ () 内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

5 保有する救急用又は患者搬送用の自動車の出動回数 180 回 【資料⑥参照】

6 備考

- | |
|---|
| ① 救急告示医療機関の認定（期間：令和 5年 2月 1日 ～ 令和 8年 1月 31日）
「20230303_愛知県公報(第385号)」 【資料⑥参照】 |
| ② 第二次救急医療施設 |

※特定の診療科において、重症救急患者の受入れ体制を確保する場合は、その旨を記入すること。

既に、「救急病院等を定める省令」（昭和 3 9 年厚生省令第 8 号）に基づき知事の救急病院の認定を受けている病院及び「救急医療対策の整備事業について」（昭和 5 2 年 7 月 6 日付け医発第 6 9 2 号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

1 研修の内容 【資料⑦参照】

- ・地域の医師等を含めた症例検討会、研修会
- ・医学医療に関する研究会

2 研修の実績 【資料⑦参照】

(1) 地域の医療従事者への実施回数	18 回
(2) (1) の合計研修者数	565 人

※ 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

- (1) 研修プログラムの有無 (有)・無
- (2) 研修委員会の有無 (有)・無
- (3) 研修指導者

氏 名	職 種	診 療 科	役 職 等	臨 床 経 験 年 数	備 考
【資料⑧参照】				年	

※ 研修責任者については、備考欄にその旨を記入すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要
会議室 (1)・(2)	97.34m ²	(主な設備) 椅子、机、プロジェクター、マイク、マイク スタンド、モニター (収容人数) 40人：20人×2室

カンファレンス室 (1)・(2)・(3)	107.96㎡	(主な設備) 椅子、机、プロジェクター、ホワイトボード、モニター (収容人数) 45人：15人×3室
カンファレンス室 (1) 医局横	51.6㎡	(主な設備) 椅子、机、プロジェクター、スクリーン (収容人数) 27人

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

1 管理責任者等

	氏 名	職 種	役 職 等
管 理 責 任 者 の 氏名、職種、役職等		医師	病院長
管 理 担 当 者 の 氏名、職種、役職等		事務員	総務課長 病歴管理室長

2 諸記録の保管場所及び分類方法

		保 管 場 所	分 類 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約		電子カルテ サーバー	電子カルテ： 1 患者 / 1 : I D 日誌：日付毎
病院の管理及び運 営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携医局	
	救急医療の提供の実績	Daido Medicine Information Technology 管理部	
	地域の医療従事者の資質の向上を図る ための研修の実績	地域医療連携医局	
	閲覧の実績		
	紹介患者に対する医療提供及び他の病 院又は診療所に対する患者紹介の実績 の数を明らかにする帳簿	地域医療連携医局	

※ 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法
及び閲覧の実績

閲覧責任者	氏名		職種		役職等	
			医師		病院長	
閲覧担当者	氏名		職種		役職等	
			事務員 事務員 事務員		PSC副センター長 総務課長 病歴管理室長	
閲覧場所	ID-Link 会議室、地域医療連携医局、病棟					
総閲覧件数	医師	歯科医師	地方公共団体	その他	合計	
	105,012件	22件			105,034件	
閲覧手続の概要	閲覧方法： ① 来院しての閲覧 ・閲覧希望者は、閲覧希望日の3日前までに電話等により地域医療連携室へ連絡して、閲覧する旨を申し出る。 ・閲覧希望者は、地域医療連携部門にて、閲覧簿に必要事項を記載する。 ・電子カルテは、地域医療連携医局の端末を用いて閲覧する。 ・個人情報保護のため、カルテの閲覧は、必ず地域医療連携室職員の立ち会のもと行う。 ② ID-Linkによる閲覧 ・閲覧希望者は対象の患者から、ID-Link同意書により、カルテを閲覧する旨の同意を得る。 ・地域医療連携室職員は、FAX等によりカルテ公開同意書を受付後、システムにてカルテ公開の処理を行う。 ・ID-Linkは電子証明書により、セキュリティを担保した通信を行っている。 ・費用負担：カルテ閲覧に関しては原則、費用は無料です。 受付時間：平日8:30～17:00とする。					

医療法施行規則第9条の19第1項に規定する委員会の開催の実績

- 1 委員会の開催回数 4回
- 2 委員会における議事の概要

※委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。【資料⑨参照】

第5回 地域医療支援病院準備委員会

令和6年6月7日 14時～15時00分 リアル・オンライン会議 出席22名・委任状2名・欠席2名

I 地域医療連携に関するデータ報告

- 1) 紹介率・逆紹介率・初診患者数の推移
- 2) 救急車受入れ状況
- 3) 病診連携（検査予約）

II 「肝・胆・膵がんの話」

第6回 地域医療支援病院準備委員会

令和6年9月6日 14時～15時00分 リアル・オンライン会議 出席23名・委任状1名・欠席2名

I 地域医療連携に関するデータ報告

- 1) 紹介率・逆紹介率・初診患者数の推移
- 2) 救急車受入れ状況
- 3) 病診連携（検査予約）

II 「消化器内科のトピックス」

第1回 地域医療支援委員会

令和6年12月6日 14時～14時50分 リアル・オンライン会議 出席24名・委任状1名・欠席1名

I 地域医療連携に関するデータ報告

- 1) 紹介率・逆紹介率・初診患者数の推移
- 2) 救急車受入れ状況
- 3) 病診連携（検査予約）

II 「最近増えている肺非結核性抗酸菌症（肺NTM症）について」

第2回 地域医療支援委員会

令和7年3月7日 14時～14時50分 リアル・オンライン会議 出席19名・委任状5名・欠席2名

I 地域医療連携に関するデータ報告

- 1) 紹介率・逆紹介率・初診患者数の推移
- 2) 救急車受入れ状況
- 3) 病診連携（検査予約）

II 「膠原病：最近の話題 ―当院の取り組みについて―」

患者相談の実績

患者相談を行った場所	医療相談室、相談室		
患者相談担当者	氏 名	職 種	役 職 等
		社会福祉士 社会福祉士 社会福祉士 社会福祉士 社会福祉士 社会福祉士 看護師	副センター長
患者相談件数	7,038 件		

患者相談の概要

【相談時間】 8:30～17:00（平日）・8:30～12:00（土）

【相談内訳】

受診	339件	権利擁護関連	98件
情報提供	417件	理解促進	831件
社会保障制度	571件	就労・就学支援	110件
受容	414件	死後関連	75件
経済的支援	352件	虐待関連	18件
地域社会	336件	受診方法・予約方法	318件
がん相談	335件	入院依頼・転院調整	54件
書類関連	164件	セカンドオピニオン	69件
在宅療養支援	148件	緩和ケア	99件
家族関連	430件	その他	98件
院内関係	1,762件		

※ 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

【資料⑩参照】

居 宅 等 に お け る 医 療 の 提 供 の 推 進 に 関 す る 支 援 の 状 況

居宅等医療提供施設等における連携の緊密化のための支援等の実績

・地域医療連携ネットワークサービス（ID-Link）を使用した、診療情報のデータリンクを実施しており、居宅介護支援事業所や訪問看護ステーションへの診療情報の提供を実施している。
また、地域医療連携ネットワークサービスのポータルサイトも設置し、法人与各種事業所間の相互間コミュニケーションも図れるよう土壌作りを実施している。

・退院支援共同カンファレンス等

主治医、病棟看護師、退院調整担当者、ケアマネ、訪問医、訪問看護師、
介護ケアマネジメント事業所、居宅事業所等が参加し、退院後の支援について協議。

介護支援等連携指導： 198件、退院時共同指導： 287件

・地域の開業医への同行訪問など： 223件

・顔の見える連携として、延べ 556施設と連携。年 3 回以上の連携は 45施設であった。

医療を受ける者又は地域の医療提供施設に対する情報の提供の実績

- ・診療情報提供書発行件数： 12,014件
- ・ID-Link登録件数： 1,910件
- ・訪問看護指示書件数： 276件
- ・介護保険相談件数： 59件

その他居宅等における医療の提供の推進に関し必要な支援の実績

- ・地域医療機関訪問面談件数： 375件
- ・訪問看護ステーション訪問件数： 85件
- ・居宅介護支援事業所訪問件数： 41件

その他地域医療支援病院に求められる取組みの状況

1 連携体制を確保するための専用の室、担当者

専 用 の 室 の 名 称	地域医療連携室		
担 当 者	氏 名	職 種	役 職 等
		医 師 事 務	副院長・P S Cセンター長 P S C副センター長

2 病院の機能に関する第三者による評価

評 価 を 行 っ た 機 関 名	日本医療機能評価機構（認定：第 J C 2 3 1 - 5 号）
評 価 を 受 け た 時 期	認定期間：2024年6月21日～2029年6月20日 (2024年9月6日交付)

※医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

3 退院調整部門の取組

退院調整部門の実績
退院調整部門の概要
生活の中で様々な不安や課題を抱える患者・家族がいる。入院前・入院中から適切な退院先を本人・家族の意向に添って適切なサービス繋げる支援を行っている。看護師を中心に、医療ソーシャルワーカーや院内関係職種と身体状況・生活状況・家族状況・精神状況を把握する。その状況を入院中から主治医や他職種と協議し、専門分野の評価を含めて患者が安心して地域へ退院できるよう支援や調整を行っている。地域の医療機関や福祉機関と情報共有し連携を密に行うことで円滑な退院を支援できるように努めている。支援を行う際、患者の状況に応じて家族やケアマネージャーと連携し、退院後の療養生活が安心・安全に暮らしていけるよう支援している。

4 地域連携を促進するための取組みの実績

策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容
・脳卒中連携パス【術後の経過観察など定期チェック及びフォローを行う】
・大腿骨頸部骨折術後パス【術後の経過観察など定期チェック及びフォローを行う】
地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み
・前立腺がん連携パス【術後の経過観察など定期チェック及びフォローを行う】
・大腿骨頸部骨折術後パス【術後の経過観察など定期チェック及びフォローを行う】

5 病院が果たしている役割に関する情報発信の実績

情報発信の方法

- ・広報誌発行「おもてなし通信」(年3回)
- ・デジタルサイネージ(院内案内)
- ・インターネットラジオ「Dらじ」
- ・大同病院健康講座
- ・大同病院ホームページ

内容等の概要

- ・広報誌発行「おもてなし通信」(年3回)

当院の診療科・医師・専門職・病院機能などを掲載し、病院の取り組みを周知している

- ・デジタルサイネージ(院内掲示)

院内の案内、相談窓口の掲示、かかりつけ医の案内など、患者への情報提供を行っている

- ・インターネットラジオ「Dらじ」

音声コンテンツは、医師・看護師・専門職の役割を紹介する(57回配信)

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。